

日本共産党 藤本ひろしの市議会報告

新！市会議員藤本博司のブログ <http://30884187.at.webry.info/>

NO 16

2008.4.15

発行

日本共産党岩国市委員会
岩国市山手町4-3-5(電話 22-2245)

市会議員 藤本博司

岩国市麻里布町1-8-27

電話 FAX : 22-3009



市会議員 藤本博司

新しくブログを開設しました。題字の下にアドレスがあります。ぜひアクセスをお願いします。今までの市議団のホームページともどもよろしく願います。

基地対策の基本姿勢を質問

藤本 岩国市は基地機能の強化反対の立場をとっていたが、福田市長はこの立場を変えているのか。

市長 基地機能が変更される際には、十分な安心・安全対策が講じられなければ容認できないと言う立場だ。

二月予算議会は福田市長になって初めての議会として二月二十八日から三月二十四日までの日程で開催されました。福田市長が所信表明で、艦載機岩国移駐に事実上容認する「基本的に理解」を示し、国がそれまでカットしていた「庁舎建設補助金」3.5億円と再編交付金を満額支給を表明する中での議会となりました。
私は、基地問題での福田市長の基本姿勢と艦載機問題、庁舎建設補助金、就学援助制度、岩国駅へエレベーターの設置を、などを取り上げ質問しました。

藤本 機能強化反対は言わないのか。

市長 何を持って(基地)機能強化というかは、技術革新が日進月歩の今日、防衛政策に権限のない自治体が判断するのは困難。

艦載機の岩国移転について

藤本 基本的に艦載機の岩国移転に協力すると言うのは市民の民意に反するのではないか。

市長 岩国への負担の緩和に一定の配慮があるので基本的に協力する。選挙の結果民意の最大公約数をまとめた。

藤本 何を持って完全安心を担保するか。
市長 国が示す対策だけでなく市民の意見

を吸い上げる。そのため庁内に移駐問題対策プロジェクトチームを立ち上げる。

藤本 市長は国言いなりにならないと言うが、国と交渉の結果実効ある騒音、治安対策が講じられなければ移駐には応じられないと言っべきだ。

市長 国との協議が終了していないのに応じるか応じないかはいえない。

庁舎補助金について

藤本 市長は議会初日の質疑で「補助金カットは国も市も双方問題あり」と答弁したが、市長は、衆議院議員の時。われわれ超党派議員の会の国会要請の時、国にも問題がある

という認識は示されな
かったがその後認識は
変わったのか。

市長 このたびの発
言は計画の当初から今
日に至るまで国と市、
双方の間での財政計画
を含めた問題に対し、
日ごろから綿密な協議
意思の疎通が行われて
いなかったことが原因
の一つではないかと言
うことでの発言で、認
識に変化はない。

**庁長補助金カット
は地方自治民主主義に反する！**

市長の認識を問う
藤本 一旦決めた補
助金カットへの市長の
見解はどうか。

市長 私も衆院議員
時代国からは、市に対

し補助額算定にかかる
基本的な考えと補助額
について、進捗状況と
国の予算状況をみて、
年度ごとに額を決める。
国のほうから補助金の
総額は示せない。約束
したこともないと言
う趣旨の説明を受けて
いた。

以下再質問

**基地機能強化
反対の旗を
降ろすのか**

藤本 機能強化反対
の旗を降ろすのか答弁
がなかったが、基地機
能強化反対の従来の方
針、この旗を降ろすの
か端的にお答えを。

村尾基地担当部長
これまで基地機能強
化反対、配備の強化反

対と答弁してまいって
いる。市民生活への影
響度、そうしたものが
クリアできるかできな
いか、今から協議する。
これを一番大切にする
ことが責務だ。



藤本 それはわかる
が、岩
国市は
今まで
今
以上の
航空機

部隊の配備は容認しな
い。**岩国基地の性
格を変えるような措置
は容認しない。**地
元住民の生活環境に更
なる悪影響を及ぼすよ
うなことは容認できな
いと言っ基準を決めて
いた。
この立場を変えるのか。

担当部長 番目
番目 番目と質問に
あつたが市民への影響
度をはかつて 番目の
最終判断を導き出す。

藤本 そうではなく
て、基地機能強化反対
というこれまでの錦の
御旗を下ろすのか。下
げるのかと言っことを
聴いているだ。

担当部長 自治体と
して市民にどのような
影響があるか、これを
中心に考える。基地機
能強化等、そうしたも
のを勘案する。旗を下
ろすか降ろさないかで
はない。

**重ねて答弁
を求める**

藤本 そこは非常に
大事なところだ。と

は を導き出すため
のものであつて、と
は棚上げにするの
か。

担当部長 棚上げで
はなく勘案しながら、
市民生活にどれだけ影
響があるかを今から協
議していきたい。

藤本 もっとはつき
り聴くが の順序
を入れ替えるだけなの
か。

大伴副市長 基本的
には とあるが、
トータル的に一番心配
するのは、市民の安全・
安心、騒音であります
とか、治安そういった
ことが基本になる訳だ
から、すべて含んだも
のと言っことでござい
ます。

市民の安全・安心を何を 持って証明するのか

藤本 角度を変えて聴きます。基地機能がどうかということとは、技術の日進月歩をもっているいろいろなので、地方自治体としては判断ができていくと答弁された。

なぜ私がこだわっているか、国は空母艦載機の岩国配備によって騒音は全体として軽減されると言っている。しかし市民はそこは納得していない。ですから、きちんとした基準、基地機能の拡大についてはこれを認めない。基地の性格を変えるようなものは認めない、そうゆう基準をはずすと、非常に

主観的なものになる。市民は納得ができないと言っているのですから、なにをもって市民の安全・安心を証明するのか。

担当部長 何

を持って証明するからではない、われわれ市の職員は常に現実的な対応を求められている。そうしたことを協議していくことが一番大切なことだ。

**市長が変わった
ら基準を
変えるのか**



藤本 どうしてもごまかそうと思っているのかもしれないがごまかされたいです。

KC・130空中給油機を受け入れたり、CH・53D大型ヘリを受け入れたりして、このままいけば際限のない基地強化

につながつていく可能性があるとして、

前市長の時に（機能強化反対の）基準を

決めたのだ。艦載機容量を前提とする、これに大きな理解を示す、福田市長になってこの歯止めについて、今までの市の姿勢を変えるのかしつこくたずねている。

基地機能強化の

基準を変えたものではない

大伴副市長 言葉遊びではないが、（機能・性格・市民への影響など）包括したものだ。国の回答もひとつの基準になるもので、決して基地機能強化の基準を変えたと言うものではない。

藤本 「基準を変えたものではない」と副市長がはっきりと答弁されましたのでそのことを確認して次へ行きま

防音区域は

1600ヘルツから
500ヘルツへ

藤本 現在の民家防音対象区域（75W）16

00ヘルツが基地沖合移設によって三分の一の500ヘルツ（艦載機が来た場合でも）に減少する。福田市長は選挙中この防音区域を拡大するとおっしゃっておられた。現在75Wを70Wに65Wにしなければ、区域の拡大ができないが、そうするのか。

担当部長 今までも涉外知事会で等も75Wを70Wへ要望されているので引き続き要望する。

藤本 これは国全体のことであるから非常に厳しい状況である。心して引き続いて努力していただきたい。

共産党は34億の庁舎補助金の組み換え補正に反対。08年度予算には、棄権しました。

後期高齢者医療制度やめろ

— 日本共産党の大西、山田、古谷、藤本ほか2名の計6市議が反対 —

75才以上の高齢者を国保や健保から切り離し、別の保険にして保険料の値上げか医療の制限かを迫る非情な制度

四月一日から始まった後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者を無理やり今までの保険から自動的に切り離して、独自の保険制度にし、保険料も年金から自動的に天引きするものです。

この保険は、各県で一本化され保険証の交付などは市町ごとに行います。三月の岩国市議会でも案例が提案され、日本共産党市議団ほか二人計六人が反対しました。

医療費の抑制が最大の狙い

この制度は75歳以上の人の医療費を抑制するのが唯一の狙いです。若い人も高齢者も選りすぐりが分散でき、保険として成り立ちますが、高齢者だけだと高齢化に伴い医療

後期高齢者医療制度 ②差別医療が導入されると



※漫画内容の情報は各市議会が検討している内容のものと必ずしも一致しません。